

アイヌ生活文化再現マニュアル

踊り

【ウポポ・ホリツパ・リムセ】

白老・新冠編

公益財団法人アイヌ民族文化財団

発刊にあたって

公益財団法人アイヌ民族文化財団は、平成9年より、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌ伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

発刊にあたって

はじめに 5

〈白老地方〉

イヨマンテリムセ（熊の霊送り） 10

ハンチカナリムセ（水鳥の舞） 28

フンペリムセ（鯨の踊り） 36

〈新冠地方〉

イウタウポポ（杵つき歌） 46

バツタリイウタウポポ（踏み臼の歌） 54

アランペリムセ（霧を無くする踊り） 59

おわりに 64

参考文献 66

踊りを体験できる施設 67

凡 例

- ・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。
- ・アイヌ語はすべてカタカナで表記し、現在各地域で伝承されている言葉で記載しております。

はじめに

アイヌの人たちは祭りや儀式などで人が集まった時には、歌ったり踊ったりしました。踊りは各地の方言によって「リムセ」、「ホリッパ」、「ウポポ」、「ヘチレ（ヘチリ）」などと呼ばれ、その種類は多種多様です。狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらべのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにした^{はら}ものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々への感謝の気持ちを表す踊りや、魔を祓うための踊りもありました。



公益財団法人アイヌ民族文化財団蔵 「白老アイヌの生活」(大正11年)より

現在では、自分が楽しむものから劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も加わっています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。

このマニュアルでは、北海道の白老地方・新冠地方の2つの地方に伝えられている踊り6種を紹介します。

【白老地方】

「イヨマンテリムセ（熊の霊送り）」



「ハンチカマリムセ（水鳥の舞）」



「フンペリムセ（鯨の踊り）」



【新冠地方】

「イウタウポポ（杵つき歌）」



「バッターイウタウポポ（踏み臼の歌）」



「アランペリムセ」（霧を無くする踊り）」



■解説者

白老地方：
白老民族芸能保存会 会長
長谷川 邦彦さん



新冠地方：
新冠民族文化保存会
宮野 一子さん



白老地方

イヨマンテリムセ (熊の霊送り)



イヨマンテリムセ

イヨマンテとは、熊の魂を、もともといた天上の神々の国へ送り返す伝統儀式です。

アイヌの人々にとって、熊はキムンカムイ、山の神と位置づけられる存在です。イヨマンテリムセは、熊の魂を送るとき、または、送ったあとに踊られてきました。白老地方に伝わるアイヌ古式舞踊の代表的な踊りとなっています。

■ 歌詞※

♪ ホイヤ ホイヤ ホイヤ ホイヤ

オロロハオー ホイヤ ホーイヤハーオ ホイヤー

イエイエハンルイルイサー イエイエハンルイサー

フンジャーアーアーホレレー フンジャーアーアーホーホイヤー

ルイカハーハンレー ルイカハーハンレー オーロスハンゴーエ

フンジャーアーアーホレレー フンジャーアーアーホーホイヤー

ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー

ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー

全員で、歌いながら輪になって踊ります。女性の踊りには、いくつもの振りがあり、非常に体力を使います。また、次々と動きが変わっていくことも特徴です。男性は、掛け声を出しながら、刀を前に突き出す動作を繰り返します。途中で、踊りながら全体の輪を小さくしていき、最後に元に戻ります。



ホーックン ホーックン (ホス) ホーックン ホーックン ホーックン ホーックン
 ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクルカームイ
 ハイクルカームイ ハイクル
 ペヤペー チャーナシ チャーナシ フム フム
 ペヤペー チャーナシ チャーナシ フム フム
 ペヤペー チャーナシ チャーナシ
 トンキッポーハラヘー トンキッポーハラヘー トンキッポーハラヘー
 ハイッケワ ハイッケワ ハイッケワ ハイッケワ ハイッケワ
 ハイッケワ ハイッケワ
 オロワーツッポーオロワー オロワーツッポーオロワー
 オロワーツッポーオロワー オロワーツッポーオロワー
 エーホーマー エーホーマーホス ホーマーエーホーマーホス

以上くりかえし

※アイヌ語は片仮名表記
 現在、白老地方に伝わる
 アイヌ語の歌詞です



■ 踊りの各部

《基本の動き》



膝を軽く屈伸しながら、手を叩いて拍子をとります。

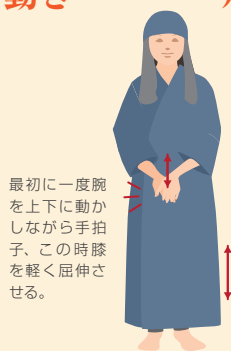


このとき、輪になって左足を横に出し右足を揃えて移動します。

基本の動き

輪の中心を向き、足の動きに合わせて手拍子を打ち、時計回りに進む。

ア 左に進みながら手拍子



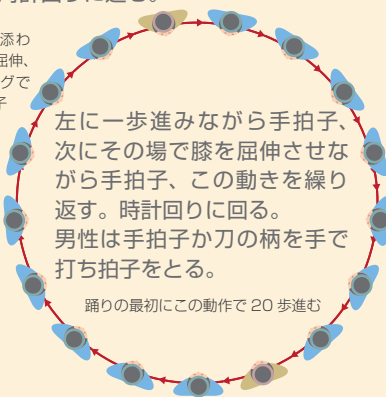
左足を横に進めるタイミングで一度手拍子



左足に右足を添わせ、その場で屈伸、このタイミングでもう一度手拍子

左に一歩進みながら手拍子、次にその場で膝を屈伸させながら手拍子、この動きを繰り返す。時計回りに回る。男性は手拍子が刀の柄を手で打ち拍子をとる。

踊りの最初にこの動作で20歩進む



■女性の動き

〈各部の動き①〉

【歌詞】 フンジャーアーアーホレレー フンジャーアーアーホーホイヤー

腰を曲げて前にかがみ一度手を叩いてから、起き上がり両手を肩に添えます。

※左肩に手を添える動き、右肩に手を添える動きをそれぞれ4回行う

この動きは左に移動しながら行います。

※左足を横に出して右足を揃えて左へ進む



イ 腰を曲げて前にかがみ一度手をたたき、両手を引き上げて肩に添える様な動作



屈んだ膝の前
で手拍子

4回



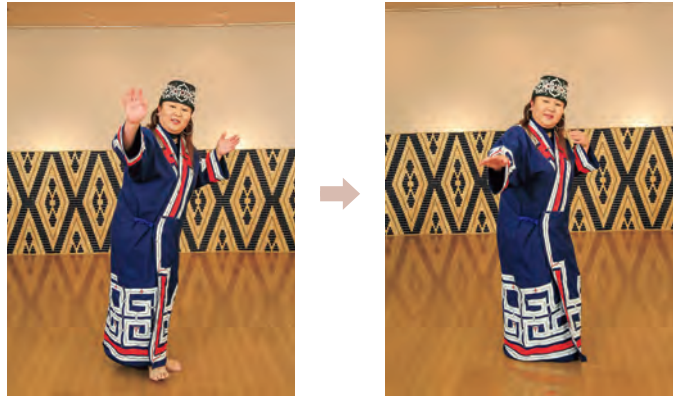
輪の中心を向き、足の動きに合わせて手拍子を打ち、時計回りに回る。

右側 4回左側 4回ずつ
繰り返す

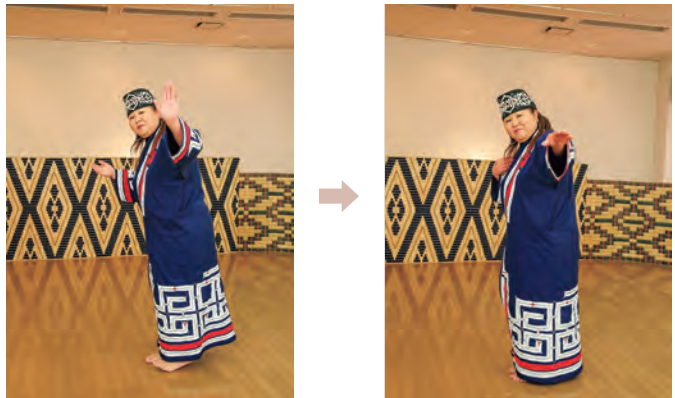
〈各部の動き②〉

【歌詞】 ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー

- ①1度手を叩き進行方向を向きます。
 左手は肩に、右手は真横に出します。
 歌にあわせて両手首を動かします。
 左足を前に出して右足を揃えて左へ進みます。
 ※左足を前に3回出したら向きを入れ替える。



- ②進行方向の逆を向いて手を入れ替えます。
 ※右手は肩に、左手を真横に出す。
 逆向きになったら足を揃えずに進む。



男性の動き

男性は以降この動作を繰り返す。

前を出す時は手首を90度回し刀を横に向ける。

エムシ(刀)

女性の踊りがイに変わったら男性は鞘から剣を抜き左に一歩ずつ横に進みながら立てた剣を前後させる。この時足は軽く屈伸させる。

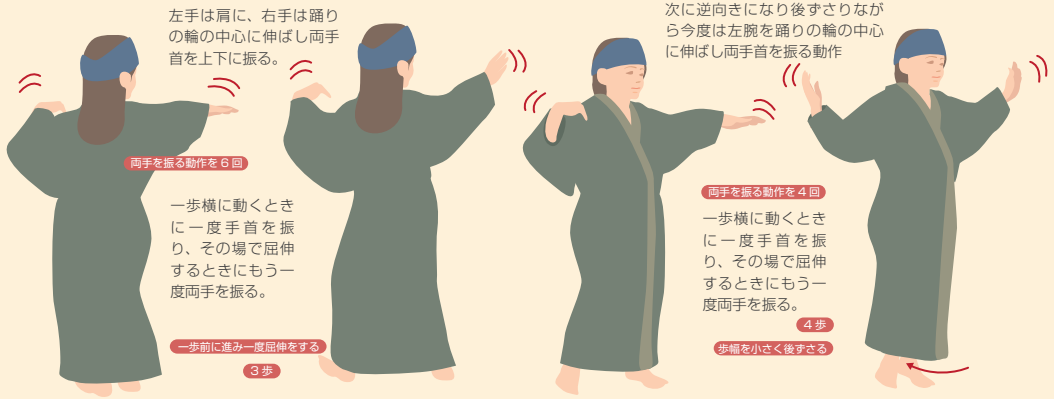
男性の基本的足の動き 繰り返して左方向へ進む。

男性は足を揃えず左足の少し後ろに右足を寄せる。

女性の基本的足の動き 繰り返して左方向へ進む。

両足がそろった場所で一度屈伸する

ウ 踊りの輪の中心に腕を伸ばし歌に合わせて両手首を動かす。
時計回りに進み、足の動きに合わせて動作を繰り返す。



〈各部の動き③・準備〉

【歌詞】 へーランネー へーランネー へーランネー へーランネー へーランネー



次の動きに入る前に着物の袖口を指で軽くつまみます。

〈各部の動き③〉

【歌詞】 ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー ヘーランネー

① 進行方向と逆向きのまま、左手を胸に当て

前屈みになりながら、右手を開く動作を3回、手を入れ替えて左手を開く動作を2回行います。



② 右手を横に開いて閉じます。
動きは3回。

③ 左手を横に開いて閉じます。
動きは2回。



工 両袖口を手で押さえ、胸元で抱え、脇に片腕を広げる動き

輪の中心に対して斜め右(左)を向き、足の動きに合わせて交互に動作を繰り返す



袖口を指で押さえて踊る。



両手を胸元に抱え、次に右手を開き身体を右に倒す動作を繰り返す。

3回

足は基本の動き



両手を胸元に抱え、次に左手を開き身体を左に倒す動作を繰り返す。

2回

足は基本の動き



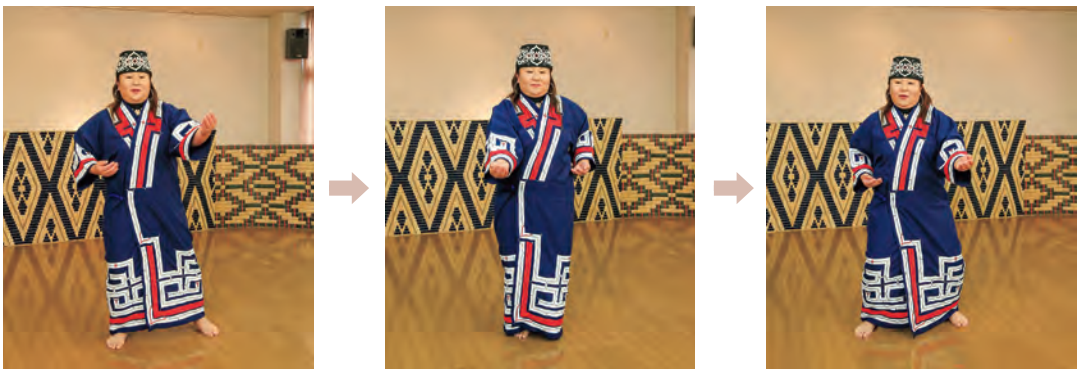
〈各部の動き④〉

【歌詞】 ホーックン ホーックン (ホヌ) ホーックン ホーックン ホーックン ホーックン

① 軽く腰を屈め、太ももをこすりながら、左へ移動します。



② 左手、右手を腰から交互に前に突き出します。手のひらは上に向けます。



オ 軽く腰を屈め両手で太ももをこする動き **カ** 両手のひらを上に向け、胸元で前後させる動き



輪の中心を向き足の動きに合わせて両手を太ももで上下させる動作



足の動きに合わせて輪の中心を向き両手のひらを上へ向け、左手、右手を交互に腰から前に突き出す。



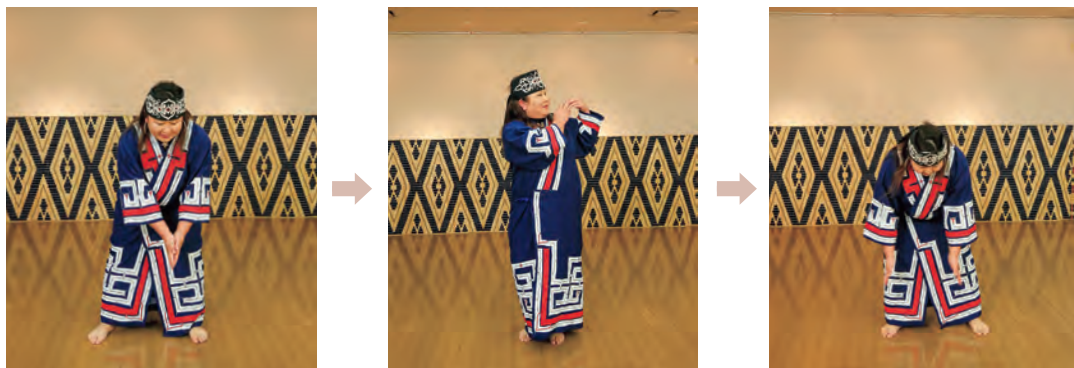
3回

足は基本の動き

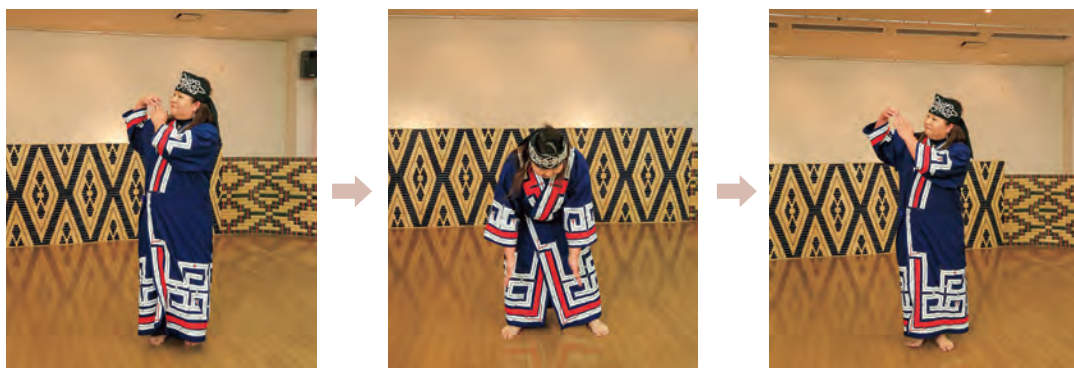
〈各部の動き⑤〉

【歌詞】 ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクルカームイ ハイクル

①前に屈み、下位置で手を叩き、両手を左肩に添える動きを3回行います。



②両手を右肩に添える動きを2回行います。

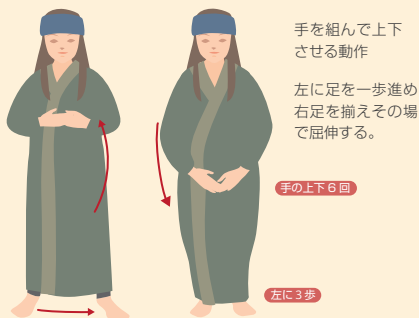


③手を前で組んで、上下させます。

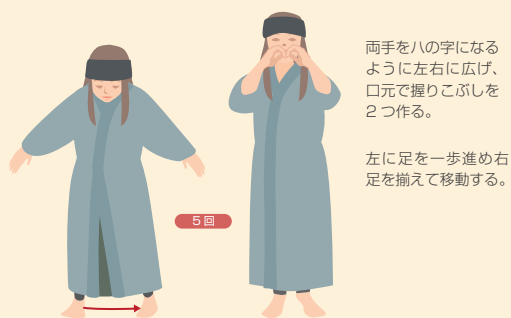


手を上下させてながら左足を横に出し、右足を揃えて横に進みます。

キ 足の動きに合わせ、手を一度上下させ、屈伸のタイミングでもう一度上下させる。



ク 足の動きに合わせ、手を一度上下させ、屈伸のタイミングでもう一度上下させる。

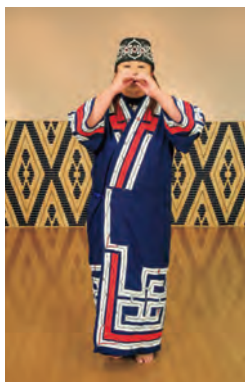


〈各部の動き⑥〉

【歌詞】トンキッポーハラヘー トンキッポーハラヘー トンキッポーハラヘー



※この動きも左に移動しながら行います。



① 軽く前屈みになって両手を「ハ」の字になるように広げます。

② 次の動きで、両手を口元にあて、握りこぶしを2つ並べて作ります。



③ 握りこぶしを2つ並べたときはひじを「ハ」の字になるように開きます。

〈各部の動き⑦〉

【歌詞】ハイッケワ ハイッケワ ハイッケワ ハイッケワ

- ① 斜め左を向いて手を叩く、続けて斜め右を向いて手を叩く。左、右、合わせて6回手を叩きます。



- ② 両手を腰に当て、左足を進行方向に出すと同時に腰を屈め、左ひじを左足に近づけます。右足を揃えて軽く屈伸しながら、立ち上がります。



- ③ この動きを6回行います。



- ④ 左足を進行方向に踏み出すときはつま先を上に向けます。

〈各部の動き⑧〉

【歌詞】 オロワーツッポーオロワー オロワーツッポーオロワー

〈準備〉 左手は、手のひらを上向き。右手は、手のひらを下向きにして隣の人と手をつなぎます。



- ① 隣の踊り手と手をつないだら、両手を振り下ろしながら左足を真横に出します。
次に、両手を振り上げて、右足を左足に揃えます。



〈各部の動き⑨〉

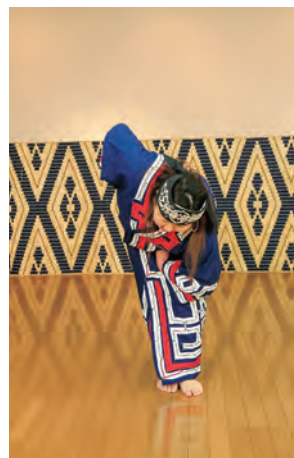
【歌詞】 エーホーマー エーホーマーホス ホーマーエーホーマーホス

①両手を腰に当て左足を横に出すと同時に前に屈みます。
左ひじを左足に近づけます。

②右足を左足の少し後ろに引きつけます。

③屈伸しながら、左足を進行方向に出します。

④右足を左足に揃えて、進行方向を向きます。





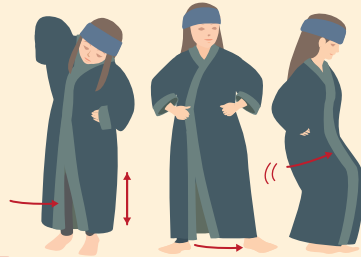
ケ 足の動きに合わせ、左側右側に身体を向け交互に手をたたく。



コ 腰に手を当て左に足を踏み込むと同時に腰を左に屈める。



シ 腰に手を当て一步左に進むと同時に腰を屈め左ひじを左足に近づける。前を向き左に一步進み身体を進行方向に向けまた一度屈伸する。



サ 両側の人と手をつなぎ歌に合わせて手を上下に振る動き 8回



■男性の動き

〈準備〉



男性の踊り手はエムシアッ（刀を下げるための帯）をたすき掛けにして、刀を身につけます。



〈各部の動き〉



① 男性の踊り手は手拍子、または、刀の柄を打って拍子をとります。

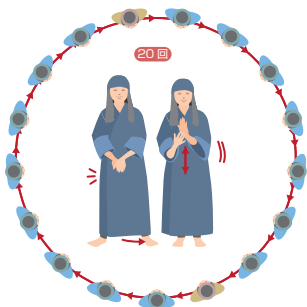


② 次に、刀をぬき、前に突き出して拍子をとります。

このとき、手首で刀を90度回し、音を鳴らします。

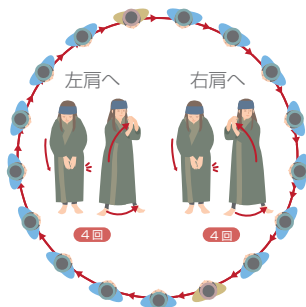
踊り全体の動き

1 ア



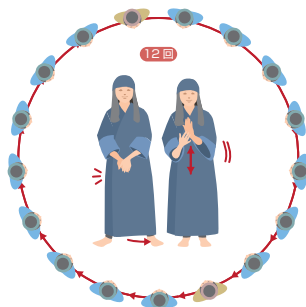
図解 13P

2 イ、男性は剣を抜き、立てて前後させる。



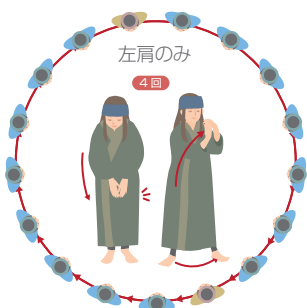
図解 14P

3 ア



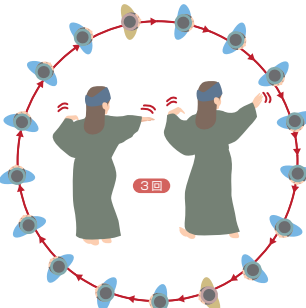
図解 13P

4 イ



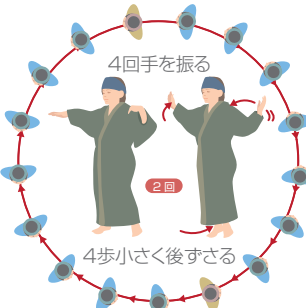
図解 14P

5 最初に手拍子を一つし、進行方向を向き



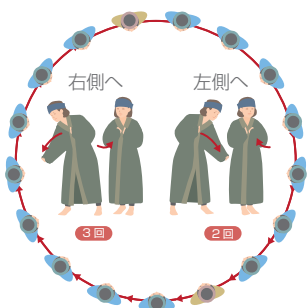
図解 16P

6 進行の逆を向き



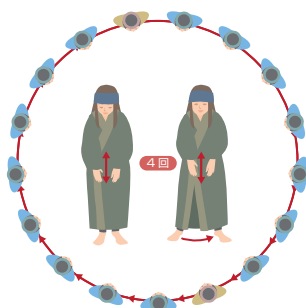
図解 16P

7 エ 両袖口を手で押さえ、胸元で抱え、脇に片腕を広げる動き



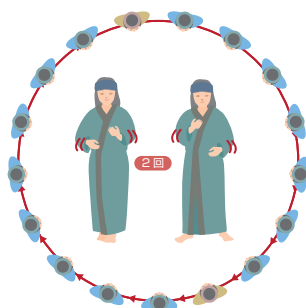
図解 17P

8 オ 軽く腰を屈め両手で太ももをこする動き



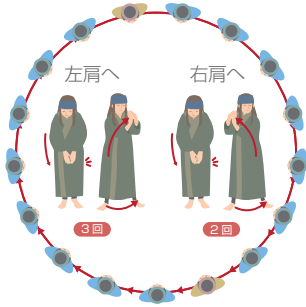
図解 18P

9 カ



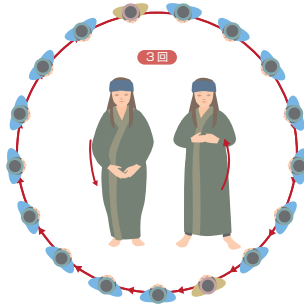
図解 18P

10 イ



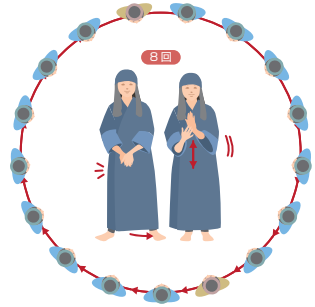
図解 14P

11 最初に手拍子をつしキ



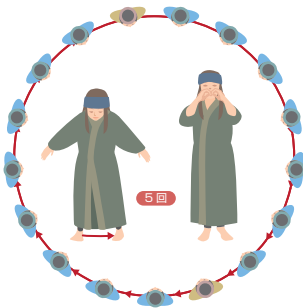
図解 19P

12 ア



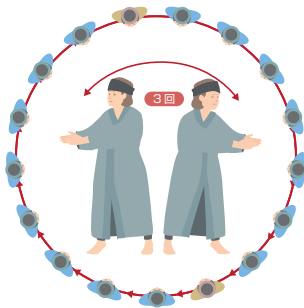
図解 13P

13 ク



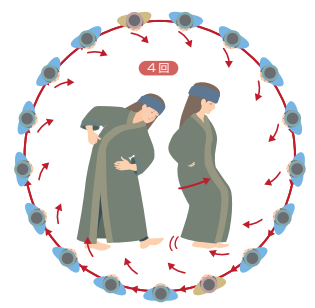
図解 19P

14 ケを8回、男性は剣を抜き前後させる。



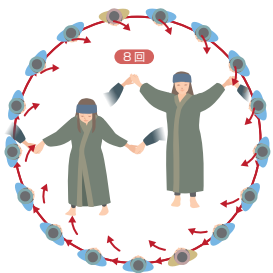
図解 20P

15 コで 斜め右に進み 踊りの輪をだんだん小さくしていく。



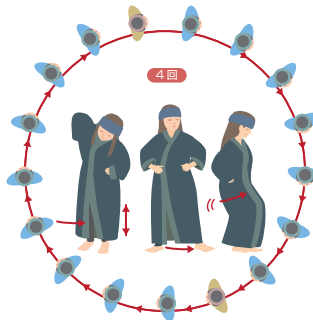
図解 20P

16 段々と輪を縮めて手をつなぎキ 男性は手をつなぐず そのままの踊り続ける。



図解 20P

17 シで 小さくなっていった踊りの輪を だんだん大きくしていく。



図解 20P

18 シの最後、少し腰の低い状態で、 男性は剣を掲げた状態で動きを 止める。



図解 20P

ハンチカプリムセ (水鳥の舞)



ハンチカプリムセ

アイヌ語の「チカプ」というのは鳥の意味です。この踊りでは水鳥のことを指し、「リムセ」とは、踊りのことを指します。数人が一組となって2つのグループを作り、手足を優雅に動かしながら互いの踊りを競い合います。川や湖など、水源に恵まれた白老の情景を映し出した踊りです。

■ 歌詞※1

♪ ハンチカプ ハンドーリイ

♪ ハアーホーオ ハアーホーオ

以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記
現在白老地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

2つのグループは向かい合い、1列になって踊り始めます。水鳥の羽ばたきを手で表現しながら、後ろに下がり前に進むときに2列になります。2つのグループは、互いの踊りの美しさを競い合います。途中で2列になっていた2つのグループは、輪になって踊ります。本マニュアルでは舞台を想定し2つのグループが左右に分かれ退場します。

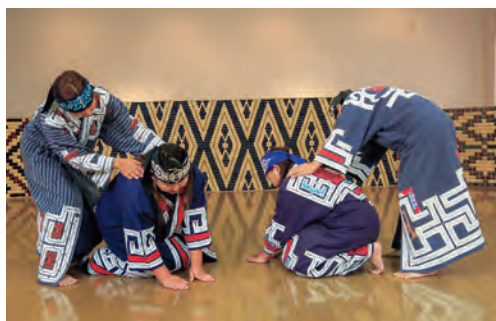


■ 踊りの各部

《各部の動き①》

〈先頭の踊り〉

先頭の踊り手は、向かい合ってつま先を立てて正座し、中央で1度床を手で打ちます。
2回目から左右に体を傾けながら向かいの踊り手と互い違いに床を打ちます。



〈2番目以降の人の踊り〉

2番目の人は前の人の肩に手をあてる 3番目以降の人は前の人の腰に手をあてます。
前屈みになり、先頭の動きに合わせて左右に体を傾けます。



体を傾けるときは向かい合った列のグループと互い違いになるようにします。



2番目以降の人はかかとを上げて、手といっしょに足で床を打ちます。



《各部の動き②》

〈準備〉

次の動きがはじまるときに、指で着物の袖を軽くつまみます。



① 体を右に傾け、両手を胸元に合わせ、左右に広げて閉じるを繰り返します。



胸元で手を閉じているとき



両手を開いたとき



ふたたび元の位置に戻したとき

- ② 羽ばたきの動作は、後ろに移動しながら行います。
下がる時は、最初に右足を後ろに出して進みます。



- ③ 手を胸元に合わせ、左手を横に開いて閉じる動きを繰り返します。



左手を開いたときに
顔を左手に向けます。



左手を閉じたとき
(元の位置に戻したとき)

- ④ この動作は、前に移動しながら行います。
まず左足を前に出し、右ひざを上げて右足を左足に揃えて進みます。



⑤ 左足を前に出して、右足を揃えるときに床を強く打ちます。



《各部の動き③》

《各部の動き②》の踊りを繰り返したら、列の先頭の踊り手は斜め右に進み時計まわりに円を作ります。左手を開いて閉じる動きを繰り返します。



手の甲を外側に向け
前の人の腰に
手を当てるように
動かします。



各部の踊りと全体の動き



図のように並んだ2組が向かい合い
先頭の人は座り床に手を付く

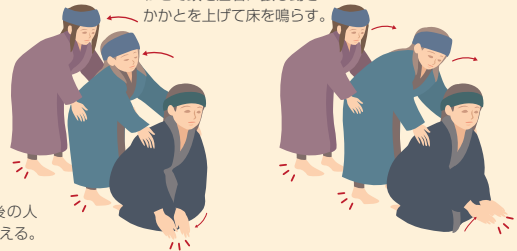
最初の動き

先頭の人は最初に床の真ん中を打ってから体を傾けながら左右の床を交互に各9回打ち、また真ん中で一度打つ。

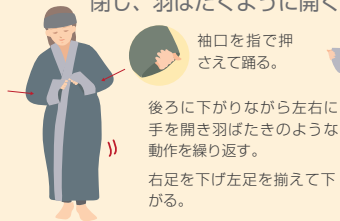
2番目の人物は前の人の肩を、
3人目の人物より後の人は前の人の腰をおさえる。

一番前に座った人物が両手を膝の前に左右につく動き

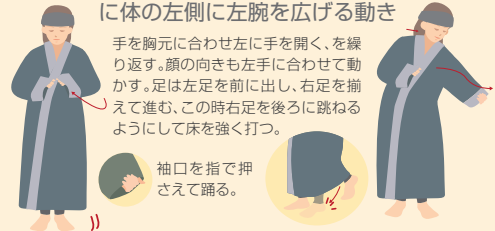
後の人物4名は手の動きに合わせて頭を左右に振る動き
かかとを上げて床を鳴らす。



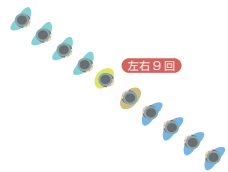
ア 体を右に傾け、袖口を手でつかみ両手を胸元で閉じ、羽ばたくように開く動き



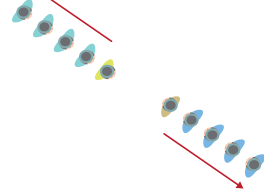
イ 袖口を手でつかみ両腕を体の前で閉じ、次に体の左側に左腕を広げる動き



1 最初の動き



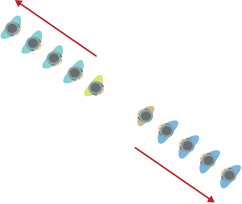
2 アで下がりながら18回



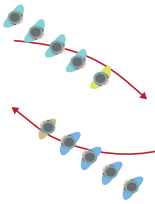
3 イで下がりながら9回



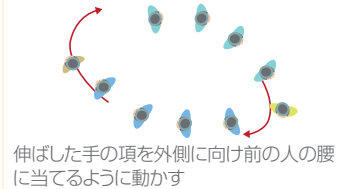
4 アで下がりながら18回



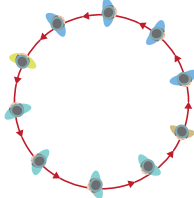
5 イで下がりながら輪になっていく



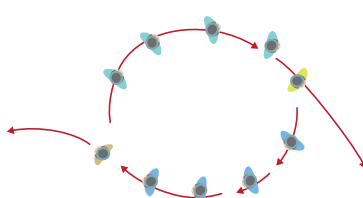
6 イで円形になったら左手を開いて閉じるを繰り返す



7 イ円形で一周する



8 イ踊り手が列ごとに左右に去って退場する



ハンチカガムセは、歌に合わせて自由に何度も繰り返したり、輪になって踊ったりすることができます。本マニュアルでは、舞台を想定し、2つの列が退場する形式をとっています。

フンペリムセ (クジラの踊り)



フンペリムセ

アイヌ語のフンペ、またはフンベとは、クジラのことです。白老地方に伝えられてきたフンペリムセ(クジラの踊り)は、自然の恵みに対する喜びや感謝の気持ちを表した踊りです。

目の見えないおばあさんが、ある日、海岸を歩いていたところ何か大きなものにつまずき、それが鯨であると気づきます。おばあさんは、村に向かって「鯨があがっているぞ」と大声で知らせ村人たちがサラニブ(袋)を背負ってやってきます。アイヌの考えでは、クジラが浜辺に打ち上げられると、神が肉や油をいっぱいつめこんだ倉をコタンに送ってくれたと喜ぶのです。村人たちは鯨を解体し、鯨の肉をサラニブ(袋)に詰め込みます。すると空から、その様子を見ていたカラスたちが、おこぼれが欲しいと鳴いて現れます。この踊りはおばあさんの知らせを受け、鯨をみんなで分け合ったという出来事を今に伝えています。また、さらに、たくさんの鯨が打ち上げられることを祈って踊られます。

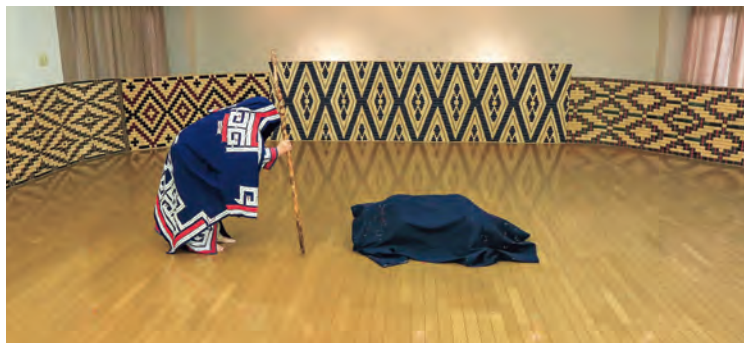
■ 歌詞

♪ フンペーヤンナー フンポーエ
ピシターヤンナー フンポーエ

♪ インカリ ウタリ フンポーエ
ワンワー インカリ

以上くりかえし

目の見えないおばあさんが フンベ/フンベ（鯨）を見つけます。



村人たちがやってきて、フンベ
／フンベ（鯨）を解体し、サラ
ニプ（背負い袋）に詰めます。



カラスがやってきて お
こぼれが欲しいと村人に
ねだります。

なかには、サラニプのなか
の大きな鯨の肉を奪おうとす
るカラスもいて、村人とカラス
の攻防が繰り広げられます。

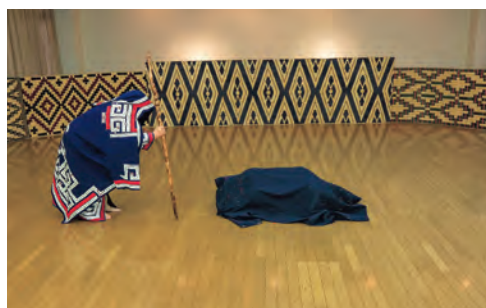


■ 踊りの各部

《盲目の老婆 準備・道具》



① 目の見えないおばあさんが鯨の方へ近づきます。



② 鯨をさわって確かめます。



- ③ 腰をたたいて体を伸ばし
コタンに向かって鯨があがっていることを
知らせます。



- ④ 台詞：
「フンベヤンナー フンベヤンナー」
(鯨があがってるぞ! 鯨があがってるぞ!)



- ⑤ おばあさんの知らせを聞いて
村人たちが歌いながら鯨のもとにやっ
てきます。



- ⑥ 村人たちがやってくると
おばあさんは、その場を立ち去ります。



《村人 準備・道具》

村人が使う道具はサラニブ（背負い袋）です。
木の皮を編んで作られています。

踊るときには詰め物をして、ふくらませておきます。



《村人の動き》



①おばあさんの知らせを聞いた村人たちはサラニブを肩にかけ歌いながら鯨の肉を取りにやってきます。



② 鯨を囲みサラニブを肩からおろします。

③村人は鯨の肉を集め袋に詰める動作をします。





- ④ カラスがやってきて鯨の肉の
分け前を得ようとしています。
村人は、歌うのをやめます。



- ⑤ 村人は、カラスに鯨の肉を奪われないようにサラニブを守る動作をします。

- ⑥ サラニブに鯨の肉を詰め込んだ村人は去っていきます。



鯨の肉を詰め込んで重くなったサラニブは、紐を頭にかけて持ち帰ります。



《カラスの動き》



①カラス役の踊り手はカラスの鳴きまねをしながら両手で羽ばたきの動作をしながら小走りで登場し、村人を取り囲みます。



②カラス役の踊り手は横から分け前を得ようとしたり村人のサラニブから鯨の肉を奪おうとします。



③村人が去ったあとカラスは鯨のまわりに残ります。



④鯨の肉のおこぼれをもらったカラスはその場を去ります。

〈フンペ／フンベ（クジラ）〉

フンペ役の人は中央で横になり、裏返した着物で全身を覆います。



舞台を想定し、このマニュアルでは、最後にカラス役の人が一人残り、鯨役の人とともに、挨拶をして終わります。



新冠地方

イウタウポポ (杵つき歌)



イウタウポポ

ヒエ・アワなどの穀物を臼に入れ2～3人で杵つきをしながら歌い、そのまわりで踊ります。この踊りでは、杵つきだけでなく、石臼、箕、こね鉢などを使った作業の様子も表現されていて、踊りを通して、かつての生活の様子を知ることができます。この踊りでは、穀物から団子を作るまでの作業の様子を表現しています。

■ 歌詞※1

♪ ヘッサーアー ヘッサー ヘッサーオーヘッサー

♪ ヘッサーアー ヘッサーオーヘッサーオーヘッサー

以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記
現在新冠地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

イウタウポボは、杵つきの作業のリズムをとる労働歌です。中央に置かれているのは杵と臼。その左側に石臼、右側に配置されているのは、箕とこね鉢です。踊り手は、そのまわりを踊りながら移動した後、それぞれの持ち場につき、かつての作業の様子を表現します。

このマニュアルでは、舞台を想定し、それぞれが作業をしたあと、一列に戻って終わる形式をとっていますが、かつては、入れ替わりながら大勢で疲れるまで踊り続けられました。



■ 踊りの各部

《各部の動き①》

① 歌に合わせて、手を叩き、拍子をとります。



手を叩くときは片方の手の平に交互にのせるようにして叩く。



② 移動するときは、左足を真横に出して、右足を揃えて進みます。



〈イウタウポボに使う道具〉



《道具を使った動き 杵・臼》



杵 (イユタニ)



臼 (ニス)



アワやヒエなどの穀物を入れて2～3人でつきます。

順番は

- ① 真ん中の踊り手
- ② 正面 右の踊り手
- ③ 正面 左の踊り手 となります。



現在では、踊りの披露のためにお米などを入れて杵でつき、かつての杵つきの様子を表現しています。



《道具を使った動き 石臼》



石臼 (シララニス)

穀物を石臼でひいて粉にする様子を再現する。



《道具を使った動き 箕》

あおってふるい、穀物の殻やごみなどを取り除くために使います。



このマニュアルでは、小豆をつかって、かつての作業の様子を再現しています。

《道具を使った動き こね鉢》





踊りでは白い布に綿などを入れた小道具を使って粉をこねて団子を作る様子を表現しています。

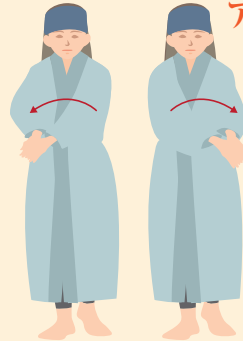
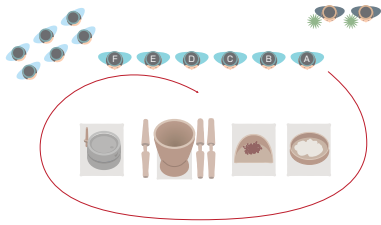


小道具は、白い布に綿などを詰めて座布団のような形にしたものです。
白い布に綿などを詰めて、お手玉のような形にしたものの2種類を用意し、粉をこねて、お団子が作られる様子を表現します。



踊り全体の動き

A～Fの人物が道具の周りをまわってから、各作業の再現をし、元の場所に戻る踊り



ア 歌に合わせて手をたたき拍子をとる。

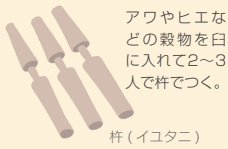
左右に手を振りながら拍子をとる。

片方の手のひらにもう片方の手のひらを交互にのせるようにする。

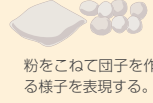
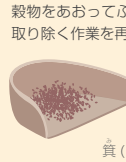
異動するときは左足を横に踏み出し右足を揃えて進む。



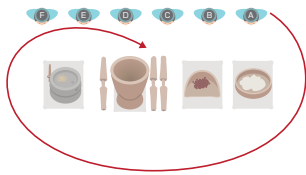
イウタウボボに使う道具



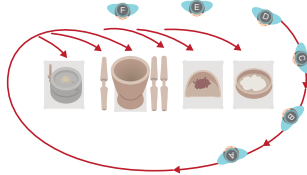
粉ひきをしてかつての作業の様子を再現する。



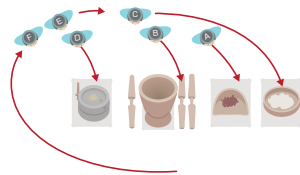
1 **ア**をその場で続け時計回りにAの人物から順番に道具の外側を回り始める。



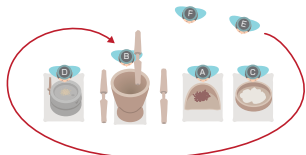
2 **ア**、等間隔で移動し正面を向く位置で各道具に分かれ作業を再現する。



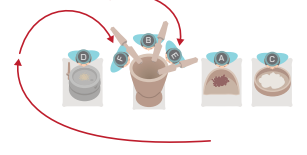
3 **ア**まずAの人物は(箕)へ、Bの人物は(杵)を持ち(臼)をつき始めるCの人物は(こね鉢)へ、各自作業を再現する。



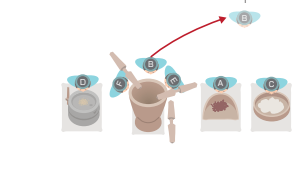
4 **ア**でEFの人物は道具の周りをもう一周してから杵を持ちBの人物の両脇に立ち作業を始める。



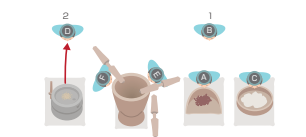
5 それぞれ配置についたA～Fの人物は各自の作業を表現。



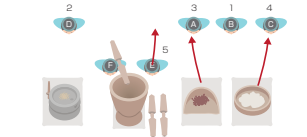
6 最初にBの人物が杵を置き、**ア**で正面を向いたまま図の位置に戻り始める。



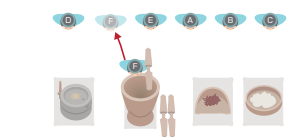
7 Bの人物が戻る頃、次にDの人物が図の位置に戻り始める。B、Dは**ア**



8 次にAの人物が戻り次にCの人物が図の位置に戻り始め、Eも戻る。**ア**



9 Fの人物はしばらく臼をつき続ける。A～Eは**ア**



Fの人物が杵を置き図の位置に戻り終了。

バッタリイウタウポポ (踏み臼の歌)



バッタリイウタウポポ

バッタリとは脱穀などに使う踏み臼のことで、バッタリイウタウポポは、穀物を臼に入れ、踏み臼を足で踏みながらつく姿を表現した踊りです。苦勞して栽培した穀物が豊作だったときの喜びがこの踊りの中に込められています。

■ 歌詞※1

♪ ホイーホイーホイ ヤイサーマーネーナヤイサーマーネーナ (ホイ)
ホーレンナーホーレー ホーレンナーホーレ (ホイ)
ヤイサーマーネーナヤイサーマーネーナ
ヤイサーマーネーナ
ホイーホイーホイ

以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記
現在新冠地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

このマニュアルでは舞台を想定し、踊り手は正面を向いて並びます。



歌い手

このマニュアルで紹介する新冠の踊りにタクサ(手草)で拍子をとる男性が加わっています。



■ 踊りの各部

〈各部の動き①〉

① 屈伸しながら、ひざを3回叩きます。



② 右足を上げて踏みながら、右手を伸ばす動作を7回行い、下位置で1回手を叩きます。
左向きで、同じ動きを行います。



各部の踊りと全体の動き

ホイホイホイの掛け声に合わせて屈伸しながら3回膝をたたく。

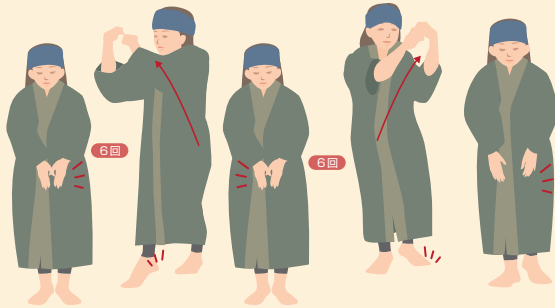


ア 足を踏んで手を伸ばして戻す動きを右・左7回ずつ行う。

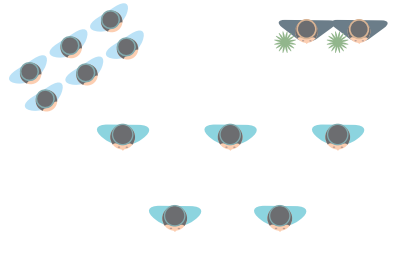
左右の動きの間に前に屈みながら体の前で手拍子を一度打つ。



イ 手を身体の中心で打ち、両手を肩に添える動作を右・左交互に6回行う。 屈伸しながら3回膝をたたく。



正面を向きその場でおどる踊り



① ホイホイホイで始まり**ア**



② **イ**のあとまたホイホイホイ



③ **ア**



④ **イ**のあとまたホイホイホイ



⑤ **ア**

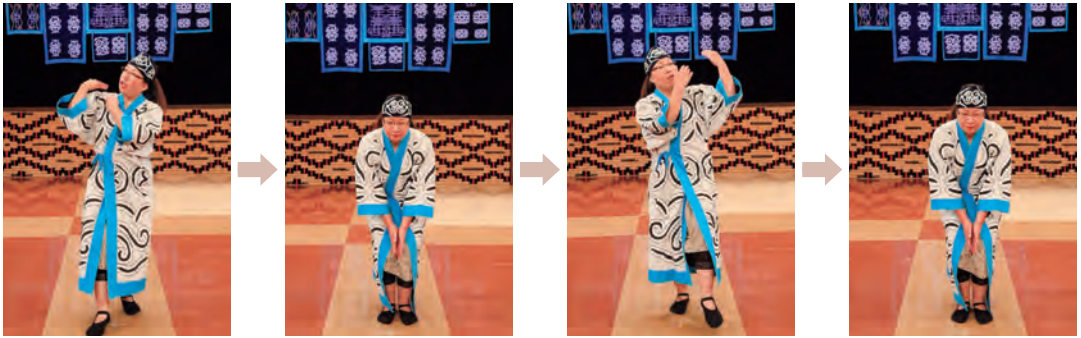


⑥ **イ**のあとまたホイホイホイで終了

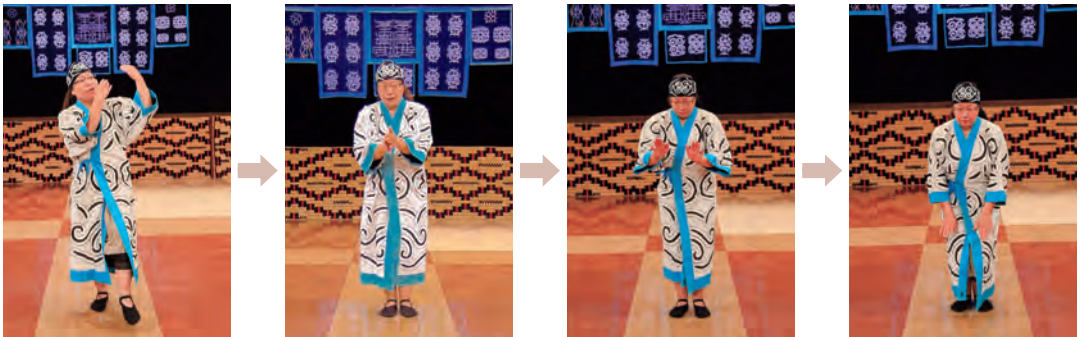


〈各部の動き②〉

- ① 右足を斜め前に出し、両手を右肩にのせ、前屈みで、下位置で1度手を叩きます。
次に、左足を斜め前に出し、両手を左肩にのせ、前屈みで下位置で1度手を叩きます。
この動きを、右、左、計6回行います。



- ② 6回目の両手を肩に添える動きを行ったら、下位置ではなく、正面で手を叩きひざを3回叩きます。



バッテリーとは、穀物を脱穀するときなどに使われる踏み臼のことです。

新冠民族文化保存会では、右記写真の足踏み式の脱穀機をイメージして踊っているそうです。



アランペリムセ (霧を無くする踊り)



アランペリムセ

アランペリムセは、隣の村へ山越えをする時に、霧がかからないようにと、祈りをする姿を表現した踊りです。太平洋に面した新冠は、霧がかかりやすく、歩いて山越えをしていた時代は、心の中で、「霧よ晴れてください、子供を守ってください。」と祈りながら、隣の村へ出かけたと伝えられています。

■ 歌詞※1

♪ ホーアホーアホー
アランペーニーニシコートゥーリ
アランペーニーセー
ホーアホーアホー

以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記
現在新冠地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

踊りはじめは、1列に並び手拍子をします。歌の一節ごとに、右手の踊り手から一人ずつ前を進み、全体で輪を作ります。歌が続く限り踊り続けることができますが、このマニュアルでは舞台を想定し、最後に1列に戻って踊り終わる形式をとっています。



■ 踊りの各部



〈各部の動き①〉

歌に合わせて、手を叩きます。

歌の節の最後に、屈伸しながら大きく3回手を叩きます。



〈各部の動き②〉

①両手を右に1回大きく回し斜め右上に手を伸ばします。

このとき、視線を伸ばした手に向けます。

②続けて、両手を左に1回大きく回し斜め左上に手を伸ばします。

このとき、視線を伸ばした手に向けます。

〈足の動き〉

斜め右に、手を回し始めると同時に右足を前に出し、屈伸しながら左足を揃える。逆も同じように行います。



各部の踊りと全体の動き

ア 歌に合わせて縦に手拍子をし 掛け声に合わせて早い手拍子

ゆっくりと歌に合わせ6回



ホーア
ホーアホー

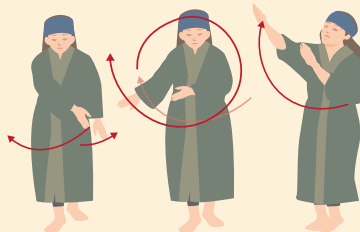
アーランペニーーニ
ニシコートゥリ
アーランペニーセー
(手拍子6回)

ホーア
ホーアホー
(屈伸しながら手拍子3回)

最後の節に合わせすばやく
3回屈伸と手拍子

イ 両手を体の前で左右に大きく回し顔は上げた手に 向ける踊り

1. 一度左側下へ両手のひらを伸ばし、ゆっくり回し、頭の右
上方に手を上げる。



一步

顔は上げた
手に向ける。

右足から一步踏み出し左足を寄せて進む。

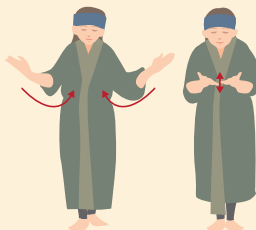
イ 2. 一度左側下へ両手のひらを伸ばし、ゆっくり回 し、頭の右上方に手を上げる。



一步
顔は上げた
手に向ける。

左足から一步踏み出し右足を寄せて進む。

3. 両手のひらを上に向け身体のに左右に広げ、 すくうように寄せ上げたあと少し下で受け止 めるように下げる。



一步

右足から一步踏み出し左足を寄せて進む。

4. 節に合わせてすばやく屈伸しながら 3回手拍子

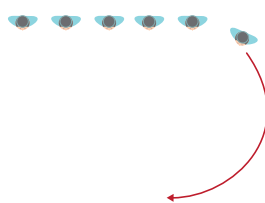


立ち止まって

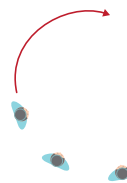
① 歌に合わせてア



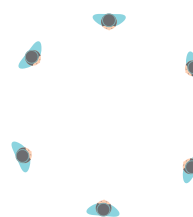
② 2度目の節で右端のひとからイで 時計回りに回っていく。



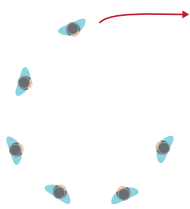
③ イを繰り返して回っていく。



④ 丸くなり一周する。



⑤ もとの場所に戻る順でア



⑥ 一列に並びア



〈各部の動き③〉

① 右足を前に踏み出しながら両側を左右に広げます。

左足を揃えながら、左右に広げた手を真ん中に揃えます。手のひらは上に向けます。



② 手を揃えたら、屈伸しながら、大きく3回手を叩きます。



おわりに

日々の生活の中で生まれ、受け継がれてきたアイヌの踊り。人々が集まれば、特別な楽器がなくとも踊りが始まりました。踊りは、アイヌの人々にとって重要なものです。

現在、アイヌの踊りは北海道の各地に伝承されており、地方ごとの特徴を持っています。

それらの踊りはアイヌ古式舞踊として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

■出演者 (敬称略・五十音順)

【白老地方】 イヨマンテリムセ・ハンチカプリムセ・フンベリムセ

〈白老民族芸能保存会〉

[踊り・歌] 小崎明日香 小野寺晶子 菅野 節子
熊野 昭子 倉部テル子 下河 ヤエ
清水 綾子 高橋 民枝 田村 弘子
土崎 雪子 中村 幸子 能登 富枝
小川スミエ 石井 シゲ 飯島 宏之
長谷川邦彦 山田 弘美 山本スナ子

[解説] 長谷川 邦彦

【新冠地方】 イウタウポポ・バツタリイウタウポポ・アランペリムセ

〈新冠民族文化保存会〉

[踊り] 板屋越和弘 川越 眞江 葛野るみ子
五嶋 紀子 清水 清美 湊瀬 清
細井 安恵 宮野 一子

[歌] 伊藤 臣 鱗川 昭子 大崎 誠子
五嶋 定光 大福喜代子 藤原まさ子
溝尾 清治 宮野 一子

[解説] 宮野 一子

参 考 文 献

アイヌの踊りの参考となる文献を紹介します。

- 岡田和夫・松宮文子・村上紀子・平野正美
1998：『新版 絵でみる 表現・民舞 指導のポイント』株式会社あゆみ出版
- 財団法人アイヌ民族博物館
1993：『アイヌ文化の基礎知識』 株式会社草風館
- 日本民俗舞踊研究会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊 昭和61年度文化財国庫補助事業調査報告書』
- 北海道アイヌ古式舞踊連合保存会
1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』
昭和60年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業
- 田村すず子
1987：『アイヌ語沙流方言辞典』 株式会社草風館
- 北海道教育委員会
1993：『平成4年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅲ）－三石・弟子屈・札幌・常呂－』
- 北海道教育委員会
1991：『平成2年度 アイヌ古式舞踊調査報告書（Ⅰ）－白糠・新冠・鹉川－』
- 日本放送協会
1965：『アイヌ伝統音楽』 株式会社日本放送出版協会

踊りを体験できる施設

アイヌの踊りを体験できる施設をいくつか紹介します。
要予約等のため事前に各施設へご確認ください。

北海道内

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ●阿寒湖アイヌシアター イコロ | 釧路市阿寒湖温泉4丁目 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●昭和新山アイヌ記念館 | 有珠郡壮瞥町昭和新山 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町二風谷55 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
踊り
【ウポポ・ホリッパ・リムセ】
白老・新冠編

2018年12月 発行

発行 公益財団法人アイヌ民族文化財団

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7（5階）

TEL(011)271-4171/FAX(011)271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ公益財団法人アイヌ民族文化財団あてに許諾をお求めください。